

# キルギスIT企業ビジネスマッチング

## はじめに

2023年10月25日（水）～27日（金）にかけて幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されたIT企業向けの展示会「Japan IT Week」への参加および日本企業とのビジネスマッチングのため、キルギスのIT企業4社を招聘した。展示会会期中にわたって4社は「キルギスITグループ」として展示ブースを設置し、自社及び自社製品のアピール活動を行った。

また、展示会参加に先立って、10月12日（木）にオンラインにて「キルギスIT企業ピッチイベント」を実施した。当会会員を中心とした日本企業に対し、キルギスIT企業の可能性についてプレゼンテーションが行われた。

キルギスでは独立から現在に至るまで、雇用を支え経済をけん引するような産業が出現しておらず、ロシアを中心とした海外への出稼ぎ労働者からの送金がGDPの3割前後を占めている。かかる状況から、産業の発展および多角化が長年の課題となっている。ITはキルギスが抱える地理的ハンデに影響されず、安価な電気・通信使用料や比較的自由的なネット環境といったキルギス特有の条件を活用できる産業分野であり、キルギス政府は「キルギスハイテクパーク」を設置しレジデント企業を税制面等で優遇するなど、支援に取り組んでいる。

以下、本稿では、キルギスIT企業と日本企業とのビジネスマッチングのために当会が実施した活動の概要について報告する。

## 参加企業概要

まず最初に、今回のビジネスマッチング事業に参加したキルギスIT企業を紹介する。

**DiGi** キルギス最初のディープテック企業の1つ。人工知能を活用することにより、地すべり、地震や氷河融解によって引き起こされる災害のモニタリングや予知といった課題の解決に取り組んでいる。ハイテクパークのレジデント企業である。

ヌラン・シャパノフCEOが訪日プログラムに参加した。

同社サイト：<https://digi.kg/>

**PetaByte** ビジネス自動化のためのサービス提供を中心として行っている。大手民間企業やCIS諸国の国家機関とのパートナーシップの下、サービス実績を蓄積してきた。100名を超えるスタッフを擁しており、C++、JAVA、C#、PHP、Python、SQL、iOS、Androidに対応可能である。また、ISO 27001、ISO 27001:2013、ISO 31000:2018の認証を得ている。製品の80%を海外の顧客に販売している。ハイテクパークのレジデント企業の1つである。

アサノフ・ティレクCEOおよびショルコフ・アザマト営業部長が訪日プログラムに参加した。

同社サイト：<http://petabyte.pro/>

**Ant Tech** アウトソーシング及びアウトスタッフイングに特化したDevOps企業。AWSやGCP、Azureのようなクラウドプラットフォームにおけるサービス管理を得意とする。また、エンジニア向けの初歩訓練も実施している。ハイテクパークのレジデント企業で、約30名のスタッフを擁する。

ウメタリエフ・タラントCEOが訪日プログラムに参加した。

同社サイト：[www.ant-tech.io](http://www.ant-tech.io)

**4tale** 開発スタッフ120人を抱える、中央アジア最大級のゲーム開発スタジオ。PC、VR、Android向けのゲーム開発において実績を有する。研修目的に使用するVR動画を作成するなど、動画作成能力やデザイン力を活用した製品受注も行っている。

本事業の枠内において、スプテリャ・オレグCEOが訪日プログラムに参加した。

同社サイト：<https://4taleproduction.com/en/>

また、今回のビジネスマッチング事業の実施にあたっては、キルギスに拠点を置く主に日本人観光客向けの中央アジア専門旅行会社「Nippon Hospitality Tabi Company」社に各IT企業との調整・連絡などをご協力をいただいた。

同社サイト：<https://www.nhtabi.com/>

## ピッチイベント

展示会「Japan IT Week」への出展に先立ち「キルギスIT企業ピッチイベント」を10月12日にオ

ンラインで実施した。冒頭、オソエフ・キルギス共和国駐日特命全権大使が挨拶を行い、「キルギスのITセクターは大きな潜在力を有しており、この分野で日本と協力することは双方に大きな恩恵をもたらすと思料する」と述べた。

ピッチセッションでは5分前後のピッチ動画をそれぞれ上映した。各動画上映後にはそれぞれQ&Aの時間が設けられた。討論者として、サンクトペテルブルグにて起業し現在は島根県に拠点を移したIT企業のSAMI Japan社の牧野寛CEOが、各企業に対し質問を行った。

1社目のDiGiは同社が開発した緊急地震速報システム「エコーアスクエーク」のデモンストラーションを行った。このシステムは、地震観測点が地震動を感知すると直ちにクラウドサーバーを経由して救急隊や重要インフラなどの施設に情報を伝達する。到達の早いP波を探知することで揺れが到達する20秒前という、他の類似製品と比較して早期の速報発出を行うことが製品の強みとしてアピールされた。また、スマホ、ラジオ、テレビなどを通じて一般人にも情報を伝達することも可能である。この製品にはAIのディープラーニングや機械学習の手法が活用されている。

## 「キルギス IT 企業ピッチイベント」プログラム

時間(JST)	プログラム
16:00-16:05	◆ 開会挨拶・議事説明 中居孝文 (一社)ロシア NIS 貿易会 ロシア NIS 経済研究所 所長
16:05-16:15	◆ 来賓あいさつ: エルキンベック・オソエフ駐日キルギス共和国特命全権大使
16:15-16:25	◆ ピッチ1: DiGi 社 ピッチ映像(録画、5分)+Q&A(ライブ、5分)
16:25-16:35	◆ ピッチ 2: PetaByte 社 ピッチ映像(録画、5分)+Q&A(ライブ、5分)
16:35-16:45	◆ ピッチ 3: Ant Tech 社 ピッチ映像(録画、5分)+Q&A(ライブ、5分)
16:45-16:55	◆ ピッチ 4: 4Tale 社 ピッチ映像(録画、5分)+Q&A(ライブ、5分)
16:55-17:00	◆ 閉会挨拶 中居孝文 (一社)ロシア NIS 貿易会 ロシア NIS 経済研究所 所長

本稿は「ロシアNIS調査月報」2024年2月号にも掲載しています。

Q&Aでは牧野CEOより、キルギスにおいて地震速報システムが開発された背景およびDiGi社が提供するソリューションのキルギス国内外での活用状況について質問があった。これに対しDiGi社側からは、キルギスでも地震は発生しており、予知や速報発出は重要な問題になっていること、キルギス緊急事態省にプレゼンを行い導入へ向けて働きかけを行っていることについて説明があった。

2社目のPetaByteはピッチ動画にて、医療、教育、製造業、金融、農業、税関業務など多岐にわたる分野において自社製品が活用されていることを強調した。具体的な製品として、システムの統合による行政機関向けの業務効率向上ソフトや、蓄積されたデータの解析により税関申告書の正確な分析を行う税関データ解析ソフト、顔認証と指紋認証を組み合わせた生体認証システムなどを紹介した。

続くQ&Aで牧野CEOは、公共部門向けの製品が多いが、日本に参入する際にはどのような顧客を想定するか、と質問した。これに対しPetaByte社は、今度の訪日プログラムを通じて日本において橋渡し役となるようなビジネスパートナーを見つけたい、サービスを提供するだけではなく、カザフスタンやウズベキスタン、ロシアなどで大きなプロジェクトを実施するための良いアイデアをいただければと考えている、と回答した。

3社目のAnt Techは動画にて、アウトソーシング及びアウトスタッフィングといった自社のサービスについて説明し、具体的な手法としてクラウドサービスの活用や、テラフォームなどを用いてIaC（コードを用いたサーバなどのインフラ構築）を実現することなどについて説明を行った。また、所属スタッフはテラフォームやマイクロソフト、クバネテスなどから認証を受けていること、欧州や米国でのビジネスプロジェクトにおいて豊富な経験を有し高い英

語力を備えていること、などが同社の強みとして強調された。

Q&Aでは牧野CEOより、DevOpsに特化したアウトソーシングサービスというユニークなサービスを提供するに至った経緯について質問があった。これに対しAnt Tech社からは、創業がパンデミックやDevOpsのクラウドへの移行に重なったことが背景としてあった、との回答があった。

最後の4taleは動画にて、PvPveゲーム（プレイヤー同士が戦うリアルタイムの戦闘ゲーム）の「HAWKED」、MOBA（2チームに分かれて敵チームを撃破するゲーム）の「H1」、メタバースゲームの「Meta」、FPS（1人称でプレイするシューティングゲーム）の「WARCOS II」（開発中）といった自社製品を、画像や動画を交えながら紹介した。ピッチ動画では自社のデザイン力の高さを繰り返し強調するとともに、さまざまなプラットフォーム向けにゲーム開発を行うことができること、3Dアート、デザインあるいはコードなど部分的な開発にも対応できることをアピールした。

Q&Aでは、4tale社の体制および今回日本への進出に関心をもったきっかけについて質問があった。4tale側は、ゲーム開発とパブリッシング（企画、販売）の双方の部門が社内であり、パブリッシャーと組んでビジュアルのみや、アニメーションの制作の受注も行っている、と回答した。また、今回の事業に参加した理由については、日本のゲーム市場、ゲーム産業に、キルギスのゲーム産業について知ってもらうことが目的であると述べ、日本のゲーム企業と契約を締結することに強い意欲を示した。

イベント終了後、参加した日本企業からは「キルギスに対してはITのイメージが薄かったので目からうろこが落ちる思いだった」「もう少し質疑を聞きたかった」といった意見が寄せられた。

## 「Japan IT Week」出展

展示会「Japan IT Week」には660社が出展し、日本企業のみならず中国、韓国、インド、ベトナムなどの企業もブースを設置して出展した。後日展示会事務局が発表したところによると、開催中の合計で41,839人の来場者があった。

「キルギスITグループ」は、「ソフトウェア・アプリ開発」の展示スペースにブースを出展した。出展に際しては、Nippon Hospitality Tabi Company社の協力によりキルギスで作成した日本語の各社概要資料や名刺、Xスタンドをブース内に設置した。「キルギスITグループ」は3日間の全日程に参加した。キルギスIT企業各社は用意したPR動画やデモ動画、ピッチイベントで使用したピッチ動画をブース内のモニターで上映し、またキルギスの民芸品をデスクに展示するなどして、集客に努めた。

開催期間中、日本のIT企業や一部の外国企業など数多くの来場者がキルギスITグループのブースに足を止めた。キルギスIT企業は日本企業からの質問にロシア語通訳を介してまたは英語で答えた他、他の出展企業のブースを訪問し、情報収集や意見交換、キルギスIT産業のアピールなどを行った。

ブースを訪れた日本企業からは「日本語ができる社員はいるか」との質問があった一方、「英語ができるのであれば支障ない」と言語面を問題視しない企業もあった。また、キルギスIT企業に仕事を発注するとすれば、まずはトライア

ルとして小さな案件から始めたい、といった声も、日本企業から聞かれた。日本企業に対しキルギスのIT産業について一定程度のアピールを行うことができた。ブースを訪問した日本企業からはキルギスIT企業に対し、後日改めてミーティングを設定することについての相談や、別の展示会やイベントへの参加の打診などがあった。

なお、キルギスITグループの出展ブースにはアルメニアから来日中のサハキャン・同国デジタル省次官も訪問した。アルメニアもまたIT産業振興に注力しており、サハキャン次官は今回の「Japan IT Week」へのアルメニアの参加に意欲的であることから展示会場を訪問していた。サハキャン次官は出展企業の代表者らと、日本企業が抱く関心やアルメニアがアピールしたいと考えている製品などについて情報交換を行った。

キルギスは日本では知名度の低い国であり、IT産業の振興に力を入れていることなどほとんど知られていない。こうした前提で実施した今回のビジネスマッチング事業であるが、ピッチイベントでは、日本企業の関心を惹き、展示会では当初の想定より多くのブース来場者を得ることができた。今回のビジネスマッチング事業を契機に日本とキルギスのビジネス関係の今後の発展に期待したい。

(構成：齋藤 竜太)